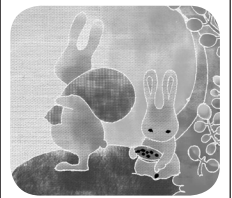


# 種まきうさぎと若者ニユース

発行●種まきうさぎ上映委員会  
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3  
池袋ISPタマビル7F 日本社会連帯機構内  
TEL03(6907)8051 mail: info@tanemakiusagi.net



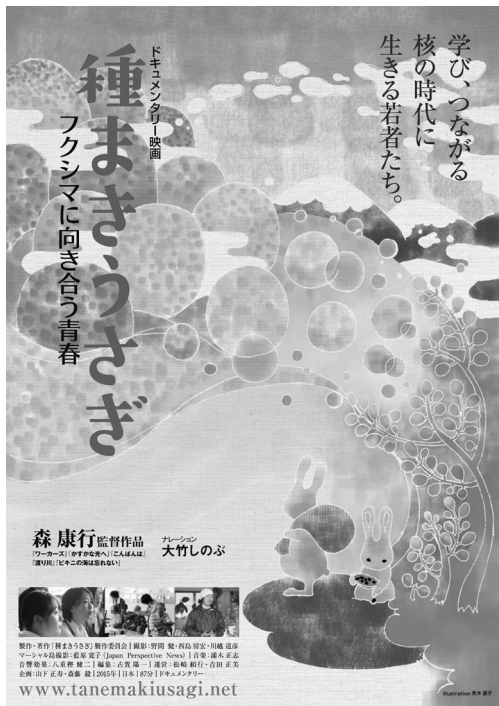
第1号  
2015.10.15 発行

2011年から撮影が始められた、ドキュメンタリー映画『種まきうさぎ』フクシマに向き合う青春』がついに完成。今秋からロードショー上映開始です。ぜひお誘いあわせてご来場ください。

**東京●ポレポレ東中野**  
10/24(土)〜11/13(金)  
10時40分〜15時30分  
<http://www.mmjp.or.jp/pole2/>

**福島●フォーラム福島**  
10/24(土)〜10/30(金)  
<http://www.forum-movie.net/fukushima/>

去る9月に開催された『福島映像祭2015』に出品、先行上映されました。上映直後から、感想や励ましなど各地から多くの声が寄せられています。今後、『種まきうさぎ』の上映情報、各地での取り組みなどを、このニュースでお伝えしていきます。ホームページ、フェイスブックでも情報を更新します。



このたび、新作『種まきうさぎ』という映画をつくりました。福島の高校生朗読グループ「たねまきうさぎ」の青春を撮りながら、いまなお収まらない原発事故の実際と私たちはいかに原発、そして私たちの生きていく社会とむき合っているのかを描いた映画です。どうぞ皆さんご来場ください。心よりお願い申し上げます。

森 康行

## 【連載】種まきうさぎと若者・団塊世代 ① 松崎頼行

試写会に参加した方々から感想を聞いた。原発をどう捉えるかという地域的・社会的、人類史的な課題と若者像。同時に現役世代、取り分け団塊の世代が見る若者像と自己の生き様、歴史観が問われるものでもあった。

少し古い資料であるが、1998年10月3日付、朝日新聞夕刊・地球の肖像に掲載された、オリビエロ・トスカニーニの「原宿に悲劇の前触れ」の記事によると、ご承知のように、トスカニーニ氏はイタリアの衣料メーカー、ベネトンの広告写真の企画・製作の全てを担当している写真家である。その手法は、商品は一切見せず、「あらゆる戦争の終着点は墓地」「黒人女性が白人の赤ん坊を抱いている」「人種の混交。「生死をさまようエイズ患者」「油まみれの水鳥」など戦争や人種差別、環境破壊など現在社会が持つ

悲劇をテーマに、広告写真を媒介として人類に警鐘している。トスカニーニ氏は21世紀の悲劇の主人公を、日本の若者に焦点を絞った。「世界の覇者だと信じていた欧米でも、若者は階級差別や貧困に悩まされている」「そうした問題にさらされずに生活している唯一の存在が日本

の若者だ」。5日間原宿で200人の若者にインタビューした。「原宿の若者は、世界一おしゃれで清潔で、暴力とも無縁でまるで天使のように見えた」「一人ひとりにインタビューしたが、誰も政治や社会について語らなかつた。「日本の現実を無意識に拒絶する彼らは実は悲劇の天使なのではないか」「世界で最も経済的に成功した企業戦士の子どもたちは、現実感と目的を失った想像の世界に遊ぶこぎれいな天使にみえた」貧困や暴力にも増して、我々が今後、直面する悲劇の前触れなのではないだろうか。この原宿の天使のポスターやカタログは500万部刷られ、翌年、世界120ヶ国に配られた。日本の若者が原発、安保法案に反対するデモや行動を世界のマスコミが特別扱いにして大きく報道するのも頷ける。私は約10年間、この「地球の肖像」を学生に配布し、約2100人から意見を聞いてきた。当初は、肯定、否定論が半々位であったと記憶しているが、5年〜6年前から、否定論、或いは自己の考えを主張する学生が増えてきた。私は、トスカニーニ氏に共感し、一定の共通する認識を持っていった。ある意味では、私と同様、団塊、プチ団塊の世代に共通する感覚的思考かも知れない。最近のNHKの若者を対象にした世論調査によると「自分の将来が不安」64%、「日本の将来が不安」77%で、その他を

入れると約80%の若者が、日本の現実を直視してきている。日本や若者の未来と生活、生存権を奪う原発事故と再稼働。憲法、民主主義を根底から否定する安保法案等。国民や若者の未来を根底から破壊する政府の政策に対して若者は反対の声をあげ行動をしている

「今、何故、若者が？」と言う問いが、我々の世代に鋭く突き刺さる。その応えは『種まきうさぎ』の中にあるのでは。企業戦士、団塊の世代の落し子？ 否、種まきうさぎは決して悲劇の天使ではなく、客体から、歴史を創造する主体者へ

## 全国からの声

### ◆各地から寄せられた感想などを紹介します

自由の森学園高校3年 江利そらむ

たいへんなものを見てしまった。それが、映画を見て、一番に感じる思いです。

映画を見る前、4年前に起きた震災は、私にはもう昔のこととして記憶の中にありました。

しかし、日常の中で繰り返し話される「原発・放射能」。常に私の周りに存在し恐れるものとして教えられます。

この4年間、恐れるものを知ろうとはしませんでした。

私が目を背けていたことを、この4年間の「種まきうさぎ」の活動から今日知りました。

自分と同年代の人が、大人と手を取り合っ、故郷を守ろうとしている。その

と歩きはじめた。

ドキュメンタリー映画『種まきうさぎ』は特定の若者、選ばれた学生を主体に映したドキュメントでは無い。今日の日本の若者像を何気なく、そつと誰でも種まき人になれる事を描いている。映画、小説等は、決して思想、思考を押し付けてはいけない。あえてこのタブーを破ることをお許しだければ、若者、現役、団塊世代、多くの人々が忘れかけている大切な物を拾い集め、新たな大地に育つ種まき人かも。

(元鶴ヶ島市教育長／大東文化大学講師)

姿はとても印象深く残りました。

そして、そのつながりの輪が年月を重ね大きくなっていること。

人と人がつながるってこういうことなんだ。改めて、震災の大きさと、自然の脅威に目を向けることができました。

私の周りは今、何に対しても「反対！反対！」という声を上げる人がいます。

私は、そのような声を上げていた人の輪に入ることができませんでした。怒りの気持ちを中心に繋がる輪というのは、

争いの始まりにも見えます。

こうした活動が多発している今、「種まきうさぎ」の活動のように、何かを守るために隣の人と手を取り向き合う姿を

みて、これだと思いました。大きな声を上げるより、小さな声から一歩一歩確実に成し遂げるといふこと。急がば回れ。

これから生きていく上で、大切なことを教えていただいたように思います。福島を知ること、日本を知ることでもあり、世界を知ることでもあるのでしよう。

今、上映直後の作品を関係者の皆様と見ることができて、感謝の意持ちでいっぱいです。

これから、この映画を広めさせていただきます。

まずは、自由の森学園から。

また、お会いできることを楽しみにしています。

## 各地の声

◆原発により人々の生活が破壊されたことに胸が痛む。原発より、農業、漁業の方がずっと大事。原発がなくなっただけいい。若い人の成長を頼もしく思った。(女性・60代)

◆「知り」「伝え」「何が出来るか、行動する」ことの大切さを学びました。(女性・70代)

◆たくさんの頑張っている人を知ることができました(女性・60代)

◆被爆2世です。福島この現状をもっと広く知らせて本当に原発が必要かもっと深く考えて欲しい。(女性・60代)

◆作られたこと自体凄いいいことだったと思います。おおくの方が見て欲しいと思います。高校生という時期に種まきしたもの、ずっと生きる上で一番大切なものを見つめる指針を与えてくれることでしょう。つながりの大切さを思いま

す。(女性・70代)

◆福島やその周りの人々の動きや考えに、自分も考えさせられました。(男性・10代)

◆原子力の怖さは、身体だけでなく、生きがいをも奪う事を改めて感じました。核を避けられるものならと思います。核と向き合わざるを得ない現状をどのように支えられるか考えていきたいです。(女性・40代)

◆メディアでは取り上げられない見えな

いことが見られて良かったです。現実、自分も直面している課題に目をそらさずひとつひとつ取り組んでいこうと思います。(女性・40代)

◆自分が高校生の頃を思い出しました。若い力に期待したいです。(女性・40代)

◆福島の現状を考えさせられる作品でした。(男性・20代)

◆淡々と現実描写しているが、見ているうちにだんだん、胸が締め付けられる思いがした。そして、今の政府は何を考えているのだろう、素知らぬ風で誰も責任を取らないことへの怒り。大竹しのぶさんのナレーションがとても心に染みこんでくる。感動しただけでは済まない「怒り」が込み上げてくる。(女性・60代)

◆また見に行きたいと思いました。フクシマの人が今大変だと思いました。フクシマの人をたくさん広島に呼べたらいいな。(女性・30代)

◆非常に感動しました。(男性・20代)

◆福島を絶対忘れない。そして、原発ゼロへ再稼働させない取り組みを微力ながら続けたい。(女性・60代)